

▼金賞受賞の宮崎くん（写真左）と銀賞受賞の野仲くん



全国版画コンクールで入賞

宮崎龍くん（白旗小）、野仲希望くん（乙女小）

4月18日（日）熊本市で、日連全国児童版画コンクールおよびくまもと児童版画コンクール表彰式が開催され、全国金賞を受賞した宮崎龍くん（白旗小4年・山出区）と、同銀賞を受賞した野仲希望くん（乙女小3年・船津区）が表彰されました。同コンクールは、日本専門画家連盟が主催。

金賞を受賞した宮崎くんの作品は、牛にえさを与えたときの触れ合いをテーマに、「牛にえさをやったこと」と題して板紙凸版で制作。えさをもらう牛の

豊かな表情と存在感が丁寧に描かれた作品。宮崎くんは「牛の目など、表情を意識して作りました。今度は木版に挑戦して、より特徴をとらえたものを作ってみたい」と話しました。

銀賞を受賞した野仲くんの作品は、魚釣りの楽しい思い出をテーマに、「コイをつつたよ」と題して紙版で制作。竿を持つ手や魚のうろこなどを細やかに描写した作品。「魚を釣り上げた自分の表情が、上手にできました。次はスポーツの作品を作ってみよう」と話しました。

自分たちで育てた花を提供

甲佐高校生徒が町役場などを訪問

4月16日（金）県立甲佐高等学校（牧野健二校長269人）の生徒が町役場を訪問し、授業で栽培した花を提供しました。

昨年度から授業の一環として、自分で植物を育てて命の大切さを学ぶとともに、無農薬野菜の栽培を実習し食育について学ぶことを目的に実施。県下の高校普通科で、年間を通して生物を活用した授業に取り組むのは初

の試み。栽培した花などは、地域の学校や施設などに配布するなど、地域に根差した社会奉仕活動も実践します。

同高では、「この授業で四季折々の花々などを自分たちの手で育てることで、生徒たちの命への意識や生きる力を養います。地域との交流でさまざまな体験をして、人間としての自信を付けてほしい」と話しました。



▶溜瀨町教育長に、授業で栽培した花を提供する甲佐高校生徒たち

きれいな緑川をみんなで守る

「緑川の日2010」一斉清掃作業

4月29日（木）緑川流域などで、「緑川の日2010」一斉清掃作業が行われました。緑川など自然環境の保全に、住民や企業、行政機関などが連携して取り組むことを目的として、「緑川の日」甲佐町実行委員会（志免安喜委員長）が主催。約1,300人が参加しました。

早朝から行われた清掃活動では、参加者が空き缶やタバコの吸い殻、不法投棄された家電などを回収。分別されたごみは、中甲橋グリーンパークに集められ、甲佐中学校（吉田明博校長265人）の生徒のボランティアなどによって再度分別されて処分。町内全体で、約2,630kgを回収しました。参加した60歳代の男性は「以前と比べると、ずいぶんごみが減りました」と話しました。



▶一斉清掃作業で回収したごみを分別する参加者たち

交通ルールとマナーを学ぼう

甲佐小学校で交通安全教室

5月20日(木) 甲佐小学校 (吉見和洋校長207人)で、交通安全教室が開催されました。

交通ルールとマナーを学んで、交通安全を実践することを目的として、講師に御船警察署交通課職員と町くらし安全推進室職員を招いて実施。

初めに御船署職員から、交通安全に関する講話を受講。「道路は人や車などがいて、危険が見えました。」

「交通安全を確かめよう」と学びました。

続いて、学年ごとに分かれて教室を開催。低学年は、道路での歩き方や横断歩道の渡り方などを中心に、講話とビデオで学習。高学年は、自転車に乗る前に行う装備の点検方法や正しい乗り方などについて説明を受けました。



▶自転車の点検方法や正しい乗り方について説明を受ける甲佐小児童

◀防犯パトロールなどの活動が評価されて表彰される園田会長



地域安全への取り組みを表彰

龍野地区防犯パトロール隊「ドラパト隊」

5月18日(火) 御船町で、平成22年度御船地区防犯協会連合会が開催され、龍野地区防犯パトロール隊「ドラパト隊」(池田健吾隊長)が表彰されました。

同連合会および御船警察署が、地域犯罪の予防や青少年の健全育成などの地域安全を積極的に推進し、安全で住みよい町づくりに貢献した同隊の活動に対して表彰。表彰式には、園田収多

龍野地区社会福祉協議会会長、池田隊長、宮澄安一中横田区長らが出席し、表彰状と記念品が授与されました。

同隊は、平成20年5月に同協議会の活動の一環として発足。地区の住民約200人が同隊に参加し、日常生活の中で防犯パトロールなどに取り組み、地域の安全・安心を見守る活動を行っています。

釜炒り手もみ茶作りに挑戦

辺場子ども会と地元住民で体験学習



▲辺場区の田端区長(写真中央)の茶畑での茶摘みと、釜炒り手もみ茶の製法を体験学習した辺場子ども会

5月4日(火) 辺場子ども会が、茶摘みと釜炒(い)り手もみ茶の製法体験を行いました。現在は機械で製造されるお茶を、人の手だけで作られていた伝統的な製法で作って飲むことで、お茶の歴史と製法について学ぶことを目的に、辺場区(30世帯)の田端優区長の茶畑で実施。同会の子どもたち8人と地元住民ら8人が参加しました。

子どもたちは、地元住民の指導の下、自分たちの手で茶摘みを体験。続いて、約40年前まで実際に利用されていた釜を熱し

てから生葉を炒った後、シートの上に取り出して、みんなでもみ。出来上がったお茶は、約70度のお湯で5分ほど抽出。ゆつくりとお茶を出して、甘みとこくを味わって飲みました。

子どもたちは、「お茶がおいしい」との声を上げるなど、手作りの味を楽しみました。

参加した地元住民の皆さんは「昔、小さいころに実際に作業を見た思い出を基にして、今回は実施しました。貴重な体験なので、来年もぜひやってみたい」と話しました。